

人間生活学を再考する

—学部・学科名称・学科編成・取得可能資格等の分析から—

佐藤 亜沙実*・神保 光希*

1. 研究の目的と背景

第2次大戦後、大学教育の女子への門戸開放と女子大学の創設が認められた。その過程において、それまで専門学校を中心におこなわれてきた良妻賢母主義的家政教育を大学教育としてどのように体系化し位置づけるかに関して様々な論議がなされた。主な論点は家政学は大学でおこなう学問教育になりうるのか、であった。こうした家政学に対する批判を岸本幸臣氏は、以下の3点に整理している¹⁾。1つは家政学は良妻賢母育成の心構えや工夫の集大成に過ぎず、学問とはいえないとする見方（家事学批判）、2つは、家政学は既存の科学から家庭生活事象にかかわりのある知識を寄せ集めたにすぎず、独立の科学ではないとする見方（雑学批判）、3つは家庭生活のような低次の事象が科学研究の対象には値しないとする見方（生活批判）である。果たしていずれの批判をも現代の家政学は乗り越えたのであろうか。

家政学が学問の名称として正式に用いられるようになったのは1948年である。同年に日本女子大学に家政学部が設置された。翌1949年には日本家政学会が設立されるとともに、お茶の水女子大学、奈良女子大学に理家政学部が設置され、その翌年には公立の大阪市立大学をはじめ、私立の代表的な女子大学に家政系の学部・学科が次々に誕生した（表1）。

表1 戦後の新制大学における家政学部の成立状況

1948年	日本女子大学に家政学部
1949年	お茶の水女子大学に理家政学部
1949年	奈良女子大学に理家政学部
1949年	大阪市立大学に家政学部
1949年	京都女子大学に家政学部
1949年	大妻女子大学に家政学部
1949年	実践女子大学に家政学部
1949年	共立女子大学に家政学部
1949年	同志社女子大学に学芸学部

現在、家政学部や家政学科の名称を付している大学は日本女子大学、鎌倉女子大学、岐阜女子大学、名古屋女子大学、京都女子大学、神戸女子大学、安田女子大学、九州女子大学、郡山女子大学、東北生活文化大学、和洋女子大学、大妻女子大学、愛知学泉大学（男女共学）の13大学である。

* 藤女子大学大学院人間生活学研究科（院生）

一方、家政学系の学部・学科と類似する名称として、生活科学部・同学科や生活環境学部、人間生活学部・同学科、大学院人間生活学研究科・同専攻なども現在多く見られる。家政学と生活科学・人間生活学はどう異なるのであろうか。家政学と生活科学に関しては「家政学・生活科学論争」があり、これを契機に1980年代後半以降、生活科学部へと名称変更した大学、例えばお茶の水女子大学、広島女学院大学、同志社女子大学がある(表2, 3)²⁾。では、家政学と人間生活学とはどう異なるのであろうか。

本稿は、家政学と人間生活学とは学問としての目的や方法、体系にどのような相違があるのかが疑問の出発点になっている。そこで現在の家政系の諸大学について学部・学科・研究科の名称および学科編成、取得可能資格等を調べ、さらに教育目標や研究対象・研究方法についての記載内容から主要キーワードを抽出することによって、人間生活学という用語がどのように概念化されているかを明らかにしようとするものである。

家政学とは何かについては、日本家政学会が次のように定義している。すなわち家政学とは、「家庭生活を中心とした人間生活における人間と環境との相互作用について、人的・物的両面から、自然・社会・人文の諸科学を基盤として研究し、生活の向上とともに人類の福祉に貢献する実践的総合科学である」³⁾。これに対して人間生活学の定義は公式にはなされていない。そうした現状にあつて、人間生活学は学問としてどのように社会的に認知されているのであろうか。その学問的根拠を家政学におくのか、あるいは全く別な学問領域として捉えるべきなのか、本稿をとおして、人間生活学とは何かについて再考した。

2. 研究の方法

国内の大学の「人間生活学」という名称を使用している学部・学科・大学院研究科について、各大学のホームページを資料として学部・学科および研究科の名称、学科・専攻の編成状況等を調べた。またそれぞれにおける研究対象、研究方法、教育目標等に関する掲載内容をもとに「人間生活学」にかかわると判断されるキーワードを抽出した。分析対象とした各大学のホームページは2017年6月現在である。

3. 家政学部から人間生活学部・同学科・研究科への動き

1986年郡山女子大学の家政学部にはじめて人間生活学科が開設された。その後1992年藤女子大学に人間生活学部人間生活学科が開設された。同年には、お茶の水女子大学が家政学部から生活科学部人間生活学科へ名称変更した。1996年には、ノートルダム清心女子大学が、学芸学部家政学専攻から人間生活学部人間生活学科へ名称変更をした。これらの結果をまとめると表2のようである。

現在、人間生活学部を設置している大学は9大学であり、学芸学部もしくは家政学部から人間生活学部へ名称変更をした大学が、ノートルダム清心女子大学、徳島文理大学、広島女学院大学の3大学である(表3)。なお、広島女学院大学は家政学部から生活科学部へ名称変更したあと、さらに人間生活学部へ名称変更している。次に、短大家政科から人間生活学部を開設した大学は、藤女子大学、羽衣国際大学、岡山学院大学、十文字学園女子大学、新潟県立大学の5大学である。近年では2009年に仁愛大学が人間生活学部を新設している。

一方、学部名称は異なるが、人間生活学科を設置している大学は、生活科学部にお茶の水女子大学、同志社女子大学の2大学、家政学部に郡山女子大学、九州女子大学の2大学である。(表3)。

表2 家政学部から人間生活学部・学科等への名称変更がみられた主な大学

1986年	郡山女子大学	家政学部人間生活学科設置（98年大学院 人間生活学研究科）
1992年	藤女子大学	人間生活学部人間生活学科開設（大学院）
1992年	お茶の水女子大学	家政学部から生活科学部人間生活学科
1996年	ノートルダム清心女子大学	学芸学部家政学専攻から人間生活学部人間生活学科へ名称変更
1999年	金城学院大学	大学院人間生活学研究科（博士）
2005年	羽衣国際大学（共学）	人間生活学部人間生活学科設置
2002年	岡山学院大学	人間生活学部設置
2002年	徳島文理大学	家政学部・家政学科・家政学専攻から人間生活学部人間生活学科
2002年	十文字学園女子大学	人間生活学部開設
2008年	新潟県立大学	人間生活学部開設
2009年	仁愛大学	人間生活学部開設
2014年	高知県立大学大学院	人間生活学研究科人間生活学専攻（博士）設置

表3 現在、人間生活学部もしくは人間生活学科を設置している大学

<学部の名称変更をした大学>

- 1996年 ノートルダム清心女子大学（学芸学部→人間生活学部）**人間生活学科**
- 2002年 徳島文理大学（家政学部→人間生活学部）**人間生活学科**
- 2012年 広島女学院大学（家政学部→生活科学部→人間生活部）

<短大家政科から人間生活学部を開設した大学>

- 1992年 藤女子大学 人間生活学部**人間生活学科**
- 2002年 羽衣国際大学 人間生活学部**人間生活学科**
- 2002年 岡山学院大学 人間生活学部
- 2002年 十文字学園女子大学 人間生活学部
- 2008年 新潟県立大学 人間生活学部

<新設>

- 2009年 仁愛大学 人間生活学部

<生活科学部>

- 1992年 お茶の水女子大学 生活科学部**人間生活学科**（家政学部→生活科学部）
- 1995年 同志社女子大学 生活科学部**人間生活学科**（学芸学部→生活科学部）

<家政学部>

- 1986年 郡山女子大学 家政学部**人間生活学科**
- 2001年 九州女子大学 家政学部**人間生活学科**

大学院については、現在、8大学に大学院人間生活学研究科が設置されている（表4）。そのうち、郡山女子大学、ノートルダム清心女子大学、藤女子大学、徳島文理大学、高知県立大学の5大学が人間生活学専攻を設置している。日本女子大学、東京家政学院大学、広島女学院大学の3大学は、人間発達学専攻、生活環境学専攻、生活文化（学）専攻、生活科学専攻などのように専攻が異なる。また、共立女子大学、金城学院大学、東京家政大学の大学院は研究科の名称が家政学研究科、人間生活科学研究科、人間生活総合研究科のように異なるが人間生活学専攻がある。

以上の結果から多くの大学が家政学部から人間生活学部・同学科へ、短大家政科から大学人間生活学部・学科へと移行したことが分かる。また大学院においては、人間生活学という用語は、さらにバリエーションをもって研究科や専攻の名称に使用されている。

表4 現在、大学院人間生活学研究科または人間生活学専攻を設置している大学院

<人間生活学研究科・人間生活学専攻がある大学院>	
1992年	郡山女子大学大学院人間生活学研究科人間生活学専攻
1995年	ノートルダム清心女子大学大学院人間生活学研究科人間生活学専攻
2002年	藤女子大学大学院人間生活学研究科人間生活学専攻
2002年	徳島文理大学大学院人間生活学研究科人間生活学専攻
2014年	高知県立大学大学院人間生活学研究科人間生活学専攻
<人間生活学研究科で専攻名が異なる大学院>	
1992年	日本女子大学大学院設置人間生活学研究科人間発達学専攻・生活環境学専攻
1995年	東京家政学院大学大学院人間生活学研究科生活文化専攻（共学）
1999年	広島女学院大学大学院人間生活学研究科生活文化学専攻・生活科学専攻
<研究科の名称が異なるが人間生活学専攻がある大学院>	
1994年	共立女子大学大学院家政学研究科人間生活学専攻
1999年	金城学院大学大学院人間生活科学研究科人間生活学専攻
2012年	東京家政大学大学院人間生活総合研究科人間生活学専攻

4. 人間生活学部における学科編成

人間生活学部の学科編成についてみる。藤女子大学、ノートルダム清心女子大学、羽衣国際大学については人間生活学科の他、栄養系、保育系の学科が共通して設置されているが、徳島文理大学のように心理学科、メディアデザイン学科、建築デザイン学科が設置されている場合もある（表5）。

表5 人間生活学部の学科編成

藤女子大学	人間生活学部	人間生活学科 保育学科 食物栄養学科
ノートルダム清心女子大学	人間生活学部	人間生活学科 児童学科 食品栄養学科
羽衣国際大学	人間生活学部	人間生活学科 食物栄養学科
徳島文理大学	人間生活学部	人間生活学科 食物栄養学科 児童学科 心理学科 メディアデザイン学科 建築デザイン学科
仁愛大学	人間生活学部	健康栄養学科 子ども教育学科
新潟県立大学	人間生活学部	子ども学科 健康栄養学科
岡山学院大学	人間生活学部	食物栄養学科
広島女学院大学	人間生活学部	生活デザイン学科 管理栄養学科 児童教育学科
十文字学園女子大学	人間生活学部	幼児教育学科 児童教育学科 人間発達心理学科 人間福祉学科（3コース） 健康栄養学科 食物栄養学科 文芸文化学科 生活情報学科（2コース） メディアコミュニケーション学科

一方、人間生活学部に人間生活学科を開設していない仁愛大学、新潟県立大学、岡山学院大学、広島女学院大学、十文字学園女子大学の5大学では、学科編成として生活デザイン学科、文芸文化学科、生活情報学科、メディアコミュニケーション学科等、従来の家政学系とは異なった様々な学科が設置されている。

このように人間生活学部の名称を使用しているものの、従来の家政系学部の学科編成の代表である栄養系や保育系の学科編成とは別に、心理系や生活文化系の内容を含んでいる大学、人間生活学部にデザインや情報、コミュニケーション系を含んでいる大学など、ある意味何でも“人間の生活”にかかわると拡大解釈されているむきもある。こうした多様な内容を含む学科編成が外部に対しては、人間生活学部や学科が果たして家政系の学部なのか、あるいは全く違う学問領域なのかをわからなくしている一因ではないだろうか。

5. 取得可能な資格

次に、人間生活学科で取得可能な資格についてみる。ノートルダム清心女子大学、徳島文理大学、藤女子大学、羽衣国際大学、お茶の水女子大学、同志社女子大学、郡山女子大学、九州女子大学の8大学の人間生活学科では、全てにおいて中学・高校の家庭科教員の免許が取得可能である（表6）。その他としては高校福祉の教員免許、建築士2級（国家試験受験資格）、社会福祉士（国家試験受験資格）、社会福祉主事任用資格がそれぞれ3大学で、社会教育主事が2大学で取得可能である。さらに、中学・高校の保健、養護教諭、介護福祉士、建築士（1級受験資格）、製菓衛生士、博物館学芸員等が取得可能な資格としてあげられていた。

人間生活学部のある9大学のうち、人間生活学科以外で取得可能な資格については、栄養系の学科では、管理栄養士の国家試験受験資格や、栄養士免許、栄養教諭、保育系の学科では保育士や幼稚園教諭を目指すことができる（表7）。その他、家庭、国語、英語、保健体育等の教員免許等の資格が取得可能である。建築デザイン学科、生活デザイン学科では建築に関わる資格の取得が可能である。

表6 人間生活学科で取得可能な資格

<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校教諭一種免許状（家庭）・・・8大学 ・ 高等学校教諭一種免許状（家庭）・・・8大学 ・ 高等学校教諭一種免許状（福祉）・・・3大学 ・ 2級建築士（受験資格）・・・3大学 ・ 社会福祉士（国家試験受験資格）・・・3大学 ・ 社会福祉主事（任用資格）・・・3大学 ・ 社会教育主事（任用資格）・・・2大学 ・ その他 <ul style="list-style-type: none"> 中学・高校（保健）、養護教諭、介護福祉士、1級建築士（要実務）、製菓衛生士、学芸員、博物館学芸員 等
--

注）表3における人間生活学科を開設している8大学のうち。

表7 人間生活学科以外で取得可能な資格

<ul style="list-style-type: none"> ・ 管理栄養士（国家試験受験資格）・・・9学科 ・ 栄養士免許・・・10学科 ・ 栄養教諭一種免許状・・・9学科 ・ 食品衛生管理者8・食品衛生監視員・・・7学科 ・ 保育士・・・8学科 ・ 幼稚園教諭一種免許状・・・8学科 ・ 小学校教諭一種免許状・・・5学科 ・ 特別支援教諭一種免許状・・・3学科 ・ 中学校教諭一種免許状（家庭）・・・4学科 ・ 高等学校教諭一種免許状（家庭）・・・3学科 ・ 中学校教諭一種免許状（国語・英語・保健・保健体育） ・ 高等学校教諭一種免許状（国語・英語・保健・保健体育） ・ 社会福祉主事（任用資格）・・・6学科 ・ 社会福祉士（国家試験受験資格）・・・2学科 ・ その他 <ul style="list-style-type: none"> 1級建築士（要実務）、2級建築士（受験資格）、1級建築施工管理技士、1級建築施工管理士 等
--

注）人間生活学部のある9大学（表5）のうち人間生活学科以外の27学科で、取得可能な資格。

6. 人間生活学部・学科・研究科における共通キーワード

各大学の人間生活学部・人間生活学科および大学院研究科のホームページから、教育・研究対象、研究方法、教育目標を抽出し、整理したところ、以下の共通キーワードがあがった（表8・9）。教育・研究対象については、人間生活学部・学科では、衣食住、暮らし、生活、環境などのキーワードがあがった。これらは従来の家政学系の教育内容にみられるものである。これに対して大学院人間生活学研究科・同専攻では、生活環境、心理、福祉、生活環境情報等のように研究対象に広がりが見られた。研究方法については、学部・学科、大学院ともに、多元的、横断的な方法が共通するが、学部・学科においては技術（実践的）といった家政学の方法論があげられた。教育目標については、学部・学科、大学院に共通して、QOLの向上や人間生活の充実発展が目指されていた。

表8 人間生活学部・学科にみる共通キーワード

対象：人間，生活，暮らし，衣食住，環境，福祉
方法：多様な方法論，多元的視点，横断的，知識（論理的）・技術（実践的），文化的
目標：QOLの向上，豊かな人間性の実現と社会の発展

表9 大学院人間生活学研究科・専攻にみる共通キーワード

対象：人間生活，生活環境，心理，福祉，生活環境情報 等
方法：分野横断的，多面的アプローチ，総合的，専門的視座 等
目標：生活課題の発見・解決，QOLの向上，人間生活の充実発展，豊かな生活 等

7. 結論

1984年に日本家政学会・家政学将来構想特別委員会において、家政学という名称に対しては古いイメージを一掃するため名称変更を考える余地があるのではないかと議論がなされた経緯がある。その時点で家政学の名称を「人間生活学」にすることも1つの選択肢としてあげられていた。しかし当時は、まだ家政学に変わるべき良い名称が見当たらないとする意見が多く、全体としては家政学という名称を保持することになった⁴⁾。1991年、文部省の大学設置基準大綱化により教育課程の基準要件の緩和、科目区分、単位設定、カリキュラム等の自由化が実施された。また同年、日本学術会議家政学研究連絡委員会による「家政学における大学教育充実のための指針」報告書においては、家政学の研究対象を「広く人間生活そのもの」とすることになった。こうした背景には、生活を広く環境との相互作用で捉えるといった視点の拡大や、社会状況の変化として、家族の個人化・社会化傾向がみられるようになったこともある。このようにして家政学はその研究対象を家族・家庭生活から人間生活全体に拡大させることになった。大学教育においては家政学部から人間生活学部・同学科へと名称変更することによって、社会から求められる資格や免許取得のひろがりを持たせる役割も果たしたと考えられる。

現在、人間生活学部・学科、および大学院研究科の名称として“人間生活学”という用語が多く用いられるようになった現状から考察すると、“人間生活学”は、研究対象を家庭生活を中心とする人間生活とし、具体的には、衣・食・住生活のほか、福祉や環境、心理等もその対象に含む。また研究方法は、知識・技術、実践的、横断的、総合的な学びであり、その学問としての目標は人間生活の充実・発展にある。

以上の結果として、学問的な根拠は家政学におきつつも、人間生活に関連する学問領域をより横断的・学際的に扱うのが“人間生活学”であるとの結論にいたった。

本稿の一部は、2017年9月9日開催の日本家政学会東北・北海道支部部会（於：札幌市）にて発表した。

注

- 1) 岸本幸臣：『楽しもう家政学』開隆堂, 2017年, 14頁
- 2) 中根芳一：「家政学と生活科学の概念的相違」『家政学原論部会会報』28号, 1994年, 10 - 13頁, (社)日本家政学会家政学原論部会活動報告「家政学と生活科学はどう違うか」『日本家政学会誌』45巻2号, 1994年, 193 - 196頁
- 3) 一般社団法人日本家政学会, <http://www.jshe.jp/>, 2017年11月11日
- 4) 日本家政学会将来構想特別委員会：『家政学将来構想1984』光生館, 1984年, 29-30

参考文献

- 1) 川上雅子：『家政学部の変容—名称変更にみる派生と分化—』家政学原論研究49号, 2015年
- 2) 榎並英子：『学部学科の名称変更—外発的要因からみた家政学とその名称—』家政学原論部会会報, 第31号, 1997年
- 3) 住田和子：『新しい家政学の課題と新名称による学部創設』家政学原論部会会報, 27号, 1993年
- 4) 工藤澄子：『生活の根源を考察する—家政学と名称—』家政学原論部会会報, 31号, 1997年
- 5) 山田光江：『名称「家政学」へのこだわり』家政誌44巻, 11号, 1993年
- 6) 宮下美智子：『家政学の研究対象と独自性について—内発的要因からみた家政学とその名称—』家政学原論部会会報, 31号, 1997年
- 7) 渡邊照美・橋本香織・福田公子：『私立大学における家政・生活科学部の現状と課題—学部名称と取得可能資格の視点から—』くらしき作陽大学・短期大学研究紀要, 40巻, 1号, 2007年